

平成30年度 授業改善推進プラン 高学年

	平成29年度授業改善プランの検証と調査結果の分析 (○はおおむねできていること、△は課題があること)	授業改善策 (○よいところを伸ばすための方策、△課題を解決するための方策)
国 語	<p>○話し手の意図を捉えて、聞き取ることや、立場や役割に応じて話すことはおおむねできている。</p> <p>△漢字を正しく書いたり、読んだりすることに課題がある。</p> <p>△指定された長さで文章を書くことに課題がある。</p>	<p>○話し合いの学習では、相手や目的に応じた話し方を指導するとともに、相手の意図をとらえて話を聞くことを指導することで、発言内容と目的や意図を関連付けて考えることができるようにする。</p> <p>△単元ごとに小テストを使って確認していく。</p> <p>△文章を書く場面では、「最低何行以上」や「何文字以内」などの条件を設定したり、文章構成の例を提示したりすることで、文章全体の見通しをもって取り組めるようにしていく。また、文章や資料から読み取ったことを、短くまとめる場면을計画的に設定する。</p>
社 会	<p>○生活環境を守る活動についての問題は、おおむねできている。</p> <p>△地図帳の見方や、地図帳を正しく見たり、活用したりするなどの資料の活用に課題がある。</p> <p>△工業生産や貿易など、日本の工業に関する問題は、生活に直接関わりにくいので、正答率が低い。</p>	<p>○実生活と関連付けて考える活動を取り入れたり、環境を守る活動の動画を見せたりすることで、身近なこととしてとらえられるようにする。</p> <p>△教科書や地図帳、資料集等のグラフやデータの読み取り方を練習する時間を設ける。地図帳の索引を使って地名や場所を調べたり、巻末の統計資料を活用したりする場면을計画的に設定する。</p> <p>△調べ学習を多く取り入れたり、映像資料の活用をしたりするなど、児童が身近な問題としてとらえられるようにする。</p>
算 数	<p>○基本的な計算処理がおおむねできている。</p> <p>△数量関係の問題の正答率が低い。グラフを読み取ることに課題がある。</p> <p>△活用能力が問われる問題の正答率が低い。数学的な思考力を伸ばして行くことが必要である。</p>	<p>○朝学習や普段の授業から、「確かめプリント」や「補充プリント」「ドリル」などを活用しながら反復練習を行い、基礎を定着させる。</p> <p>△グラフの特徴や有用性を理解できるように、課題に適したグラフを考えさせる活動を取り入れる。</p> <p>△「グループ交流」「全体交流」など、自分の考えを互いに発表し合う場を設定し、立式の根拠を明らかにする力を育てる。</p>
理 科	<p>○「物のあたたまり方」「天気の変化」についての問題の正答率は、他の単元に比べて高く、児童の興味・関心も高かった。</p> <p>△「月と星」「水のすがた」「1年間の植物の成長」の理解が特に十分とはいえない。</p> <p>△全体的に基礎的な知識及び活用が十分でない。</p>	<p>○実感を伴った理解ができるように意図的・計画的に実験・観察の場を設定していく。</p> <p>△理科授業の基本的な学習過程を「自然現象に触れる(自然現象について考える)→問題把握→予想→観察・実験→結果をまとめる→考察→結論→普段の生活へ生かす」とし、解決に繋げるようにする。</p> <p>△各単元の終末に既習事項を基に考察を書いたり、学習内容に関連のある画像や動画を視聴したりすることで学習内容の定着を図る。</p>
体 育	<p>○全体のねらいを明示し、学習活動を見通して児童が主体的に課題に取り組むことができた。</p> <p>○ボール操作の技能は、チーム練習による互いの教え合いが一定の成果を上げている。</p> <p>△器械運動の技能に関しては、互いに見合うことはできているものの、ポイントを相手に伝えることや、自分で改善策を考えることには課題がある。</p>	<p>○学習カードを活用し、児童が主体的に運動に取り組み、さらに思考力が高まるようにする。</p> <p>○主運動につながる補助運動として、ボールを操作する時間を設ける。また、技能向上につながる練習方法を提示する。</p> <p>△ペアやグループの組み方を工夫する。得意な児童からポイントを伝える場を設定したり、試技を撮影したものを見せたりすることで、自ら改善策を考えられるよう、指導法の工夫をしていく。</p>

音楽	<p>○音楽活動に多くの児童が意欲的に取り組むことができる。</p> <p>○音楽表現に興味をもっている児童が多い。</p> <p>△基礎的なリコーダーの奏法や歌唱の発声法を身に付けていない。</p>	<p>○活動の中で音楽の良さや演奏する喜びに気付かせ、演奏に対する意欲・関心・態度をもたせる。</p> <p>○歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の各分野の活動をまんべんなく行い、児童のもつ能力を上げたり、や可能性を引き出したりする。</p> <p>△範唱や範奏、自分や友達の音を互いに聴き合い、表現に必要な技能を身に付けさせる。</p>
図工	<p>○造形活動に意欲的に取り組むことができ、感じたことや想像したことから表したいことを見付けることができる。</p> <p>○友達の作品から発想を広げたり作品をよりよくしようと工夫を凝らしたりすることができる。</p> <p>△材料や用具について経験や技能を生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりすることが十分ではない。</p>	<p>○児童が興味をもつような題材を吟味する。例えば、目新しい材料を提示する。また、自ら表したくなるようにテーマ設定を工夫し、自己表現することへの充実感や達成感を味わわせる。</p> <p>○作品を鑑賞して良さや美しさを感じ、表現の意図や表し方の工夫を感じ取らせ、伝え合う機会をもつ。</p> <p>△そのときそのときの技能的なポイントを児童が理解しやすいように、ICT機器を使いながら解説し事例を提示する。また、机間指導しながら個別に支援する。</p>
家庭	<p>○協力し合って課題を解決しようとしている。</p> <p>△裁縫や調理など、技能面の習得の個人差が大きい。</p>	<p>○グループ活動を増やし、友達同士で教え合う場を設定する。また、教材を工夫し意欲的に取り組めるようにする。</p> <p>△学習過程を明示し、段階を追って習熟できるようにするとともに、繰り返し学習することで基礎技能を身に付けさせる。また、家庭学習等で実践を繰り返させることにより、学習の定着に繋がるようにする。</p>